

一 上代文学

p.4 [1] 上代文学の展開

問1 1 エ(古事記) 2 ク(万葉集)

3 ウ(祝詞) 4 キ(宣命)

5 カ(日本書紀) 6 ア(風土記)

7 オ(懷風藻) 8 イ(日本書紀)

▽『古事記』と『日本書紀』をあわせて「記紀」という。

▽『日本書紀』↓景戒(業師寺の僧)撰。仏教思想を中

心に、上代の民間説話を集成した、説話文学の先駆的作品。

成立は中古初期。

問2

A エ(斎部広成) B ア(淡海三船)

C ウ(藤原浜成)

▽『歌経標式』↓わが国最古の歌論書。宝龜三(七七二)

年、中国の『詩経』の影響の下に成立した。

p.5 [2] 『万葉集』問答

(1) 二〇巻・約四五〇〇首

(2) a 相聞 b 挽歌 c 雑歌 d 東歌

e 防人歌 f ますらをぶり

(3) a ケ(額田王) b ア(柿本人麻呂)

c オ(山上憶良) d カ(山部赤人)

問2 2 イ(菅家文草) 3 エ(文鏡秘府論)

▽『性霊集』↓空海の個人漢詩文集。

他の個人漢詩文集は『本朝文粹』(藤原明衡)が著名。

中古の中期に成立。

▽『新撰髓腦』↓藤原公任の歌論書。

問3 藤原公任

[6] 和歌の発達

(1) 古今和歌集・後撰和歌集・拾遺和歌集

▽三大歌集(万葉集・古今和歌集・新古今和歌集)と間違

えないこと。

(2) ① 千載和歌集 ② 幽玄 ③ 古来風体抄

(3) ア 西行 イ 曾根好忠 ウ 藤原俊成

p.9 [7] 『古今和歌集』の成立

問1 1 ク(国風) 2 サ(十) 3 エ(長歌)

4 キ(短歌) 5 オ(歌合) 6 イ(率直)

7 カ(機知的) 8 ウ(をかし)

▽歌合↓左・右二組に分かれて和歌を詠み、判者または衆

議によって優劣を定める文学的遊戯。宇多天皇の寛平年

間(八八九〜八九九)の『寛平御時后宮歌合』に

至って形式も備わり、和歌の発展に寄与した。

問2

(1) 醍醐天皇

(2) 紀貫之

e エ(高橋虫麻呂) f イ(大伴家持)

▽「弱者・貧者への人間愛を歌った人」↓「貧窮問答歌」

の作者、山上憶良。

p.6 [3] 記紀歌謡から万葉集へ

問1 1 柿本人麻呂 2 山部赤人 3 山上憶良

4 高橋虫麻呂 5 大伴旅人 6 大伴家持

7 東 8 防人(7・8は逆も可)

問2 『古事記』と『日本書紀』に収められた素朴な歌謡。

問3 a ア(短歌) b キ(旋頭歌)

c エ(仏足石歌) d カ(片歌)

e ウ(長歌)

問4

a 斎藤茂吉 b 正岡子規 c 賀茂真淵

d 源実朝

[4] 記・紀の世界

(1) b (2) a (3) b (4) b (5) a

(6) b (7) a (8) a (9) b

二 中古文学

p.8 [5] 漢詩文の隆盛

問1 凌雲新集・文華秀麗集・経国集

(3) ① 在原業平 ② 小野小町

(4) たをやめぶり

p.10 [8] 中古の物語文学

(1) 竹取物語 (2) 落窪物語 (3) 堤中納言物語

(4) 宇津保物語 (5) 伊勢物語 (6) とりかへば物語

(7) 大和物語 (8) 平中物語 (9) 源氏物語

(10) 竹取物語

p.11 [9] 『源氏物語』の世界

1 彰子 2 伊勢 3 光源氏 4 宇治

5 桐壺 6 帚木 7 夢浮橋 8 更級

9 無名草子 10 好色一代男 11 もののあはれ

p.12 [10] 女流文学者

エ(道綱母)・カ(紫式部)・ク(菅原孝標女)・コ(和泉

式部)

▽笠女郎↓『万葉集』の歌人。

▽伊勢↓『古今和歌集』の歌人。

▽建礼門院右京大夫↓鎌倉時代の日記作者。歌人。

▽式子内親王↓『新古今和歌集』の歌人。

[11] 日記文学の世界

(1) 紫式部日記 (2) 和泉式部日記 (3) 蜻蛉日記